いもち病(葉いもち)情報第3号

平成23年7月15日 愛知県農業総合試験場 環境基盤研究部病害虫防除グループ

1 葉いもち感染好適条件の出現状況

稲武を除く県内各地では、6月中旬に感染好適条件(●印)が出現して以降は、準好 適条件が7月4~8日にかけて出現したものの、好適条件になっていません(表2)。 一方稲武では6月中旬には感染好適条件が出現しませんでしたが、7月7日に感染好 適条件が出現しました。

これまでは、どの地域でも感染好適条件の出現が単発的であったため、二次感染により発生が拡大する状況ではなかったと思われます。

2 発生状況

7月上旬の巡回調査では、発病株率0.23%(前年0.05%、平年2.09%)と平年並からやや少ない発生状況です。平坦地では、このところの高温により病勢の拡大は見られていません。

3 今後の見込み

週間天気予報によれば、向こう一週間(7月16日~22日)は、期間のはじめは高気圧に覆われて概ね晴れ、その後中頃は雨が降り、20日頃からは台風第6号の影響を受けるおそれがあると予想されています。

中山間部で7月7日頃感染があった場合は、次の天候の崩れで二次感染による発生の 拡大が心配されます。

今後、感染好適条件が続くと、常発地等では、穂いもちの発生する可能性が高くなる ので、使用時期に注意して、防除(表1)を行いましょう。

農薬名	使用時期	希釈倍数•使用量	使用回数
コラトップ粒剤5	葉いもちに対しては初発10日前〜初発時 穂いもちに対しては出穂30日前〜5日前まで	3∼4kg/10a	2回以内
オリブライト1キロ粒剤	収穫45日前まで	1kg/10a	1回
イモチエース粒剤	収穫35日前まで	3kg/10a	1回
カスミン粉剤DL	穂揃期まで	3∼4kg/10a	2回以内
カスミン液剤	穂揃期まで	1000倍	2回以内
ビームゾル	収穫7日前まで	1000倍	3回以内

表1 イネいもち病に対する主な防除薬剤

表2 BLASTAMによる葉いもち感染好適日の推定結果(6月16日~7月14日)

	尾 張		西三河		東三河			中山間			
日 付	愛	南知	東	名古	豊	岡	蒲	伊良	豊	新	稲
	西	多	海	屋	田	崎	郡	湖	橋	城	武
6/16	_	_	_		_	_	_		_	_	_
6/17		_	•					2	4		8
6/18	9	5									6
6/19							4	•	2	2	1
6/20	9	9		4	6			2			9
6/21	6		2					•		4	
6/22	_										
6/23				3							
6/24	_	_	_			_	_	_	_	_	
6/25	_	_				_					
6/26	_	_	_	_			_				
6/27	5	_	3		6	2	1	_	_	2	8
6/28	8	_	4	4	5	_	_	_	_	_	4
6/29	_	_	_	_	_	_	_		_	_	_
6/30	_	_	_	_	_	_	_		_	_	_
7/ 1	_	_	_	_		_	_		_	_	_
7/ 2	_	_	_		_	_	_		_	_	
7/ 3	_	_	_	_	_	_	_		_	_	_
7/ 4	_	_	1	3	3	_	_			_	_
7/ 5	2	_	2		_	2	_		_	_	
7/ 6	_	_	_		_	_	_	_	_	_	_
7/ 7	2	2	2	2	2	2	2		_	_	
7/8	4	2	2	_	3	6	2	2	2	5	3
7/ 9											
7/10				-							
7/11		_					<u> </u>				
7/12		_									
7/13		_									
7/14	_	_	_			_			_	_	

●:好適条件(湿潤時間が長く気温も適当で、いもち病発生の好適条件が現れた)

④:準好適条件(湿潤時間は10時間以上であるが、湿潤時間中の平均気温が比較的低く、 その平均気温に必要な湿潤時間より短い)

③: 準好適条件(湿潤時間は10時間以上であるが、湿潤時間中の平均気温が 15 \sim 25 \sim ∞ の範囲外)

②: 準好適条件(湿潤時間は10時間以上であるが、前5日間の平均気温が25℃以上)

①: 準好適条件(湿潤時間は10時間以上であるが、前5日間の平均気温が20℃未満)

数値:湿潤時間が10時間未満である湿潤時間数

-:好適条件なし(いもち病発生の好適条件が現れなかった)